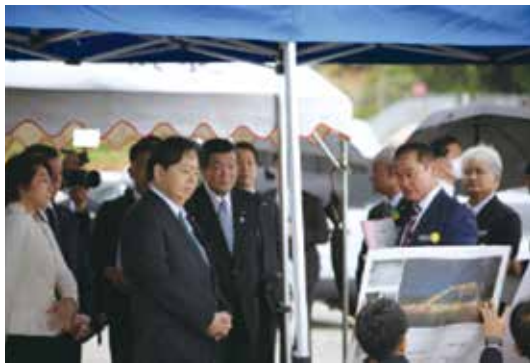


宜野湾市道喜友名23号開通



開通式テープカットの様子



佐喜眞宜野湾市長(右)から説明を受ける林芳正官房長官(左)



完成した宜野湾市道喜友名23号(国道側から)

令和7(2025)年3月23日、宜野湾市道喜友名23号開通式典が行われ、関係者の方々が出席し道路の完成を祝いました。

また、開通式前の3月16日には、林芳正官房長官が訪沖し、佐喜眞宜野湾市長から本道路に係る説明を受けました。本道路は、平成27(2015)年に返還されたキャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区から国道58号へのアクセスを確保し、利便性を向上させるとともに、災害時の避難道路として地域住民の安全を確保することを目的とし、宜野湾市が当省の防衛施設周辺整備助成事業を活用して整備したものです。

当局といたしましては、地域住民の皆様方の生活と防衛施設との調和を図ることが何よりも重要であると認識しており、今後とも防衛施設周辺の皆様方の生活の安定及び福祉の向上に寄与するための各種施策の実施に取り組んでまいります。

目次

CONTENTS

◆普天間飛行場代替施設建設事業について	2	◆名護市一般廃棄物処理施設開所式	5
◆第30回那覇港湾施設移設に関する協議会および第22回県都那覇市の振興に関する協議会の開催について	3	◆防衛施設中央審議会	6
◆風力発電設備の設置を行う際の防衛省への事前相談のお願いについて	3	◆日米合同地域安全パトロールについて	6
◆嘉手納野球場落成式典	4	◆新幹部紹介	7
		◆ロウワー・プラザ緑地ひろば無料貸し切りドッグランオープン	8
		◆沖縄県内各地でのマラソン大会に出場	8

普天間飛行場代替施設建設事業について

キャンプ・シュワブにおける普天間飛行場代替施設建設事業につきましては、平成29（2017）年11月から辺野古側の護岸工事に、平成30（2018）年12月には埋立工事にそれぞれ着手し、辺野古側の埋立地については、埋立工事がおおむね完了しています。

また、令和5（2023）年12月に変更承認申請の承認を得たことから、令和6（2024）年1月には大浦湾側の工事に着手しており、同年12月28日には大浦湾側の地盤改良工事に着手しています。

令和7（2025）年3月からは、6隻の地盤改良船により砂杭の打設作業を進めており、また、同年4月8日には新たにN-8護岸工事に着手するなど、工事が着実に進捗しています。

引き続き、普天間飛行場の一日も早い全面返還を実現し、そして、基地負担の軽減を図るため、作業の安全に十分留意した上で、関係法令に基づき、自然環境や周辺住民の方々の生活環境にも十分配慮しながら、移設に向けた工事を着実に進めてまいります。



第30回那覇港湾施設移設に関する協議会 および 第22回県都那覇市の振興に関する協議会の開催について

令和7(2025)年4月24日、那覇港湾施設の移設について国と地元の関係機関で協議する第30回「那覇港湾施設移設に関する協議会」を那覇市において開催しました。今回の協議会においては、那覇港湾施設代替施設の建設工事を進めていくにあたり必要となる作業ヤードについて、那覇港湾計画に基づく埋立予定の一部エリアを候補地とし、将来の施設整備等に支障を及ぼさないことを前提に、本事業において埋立てを行う旨を環境影響評価方法書に記載することとし、今後、関係機関との間で那覇港の港湾機能の維持及び整備、利用等に支障が無いよう検討・調整を進めていくことを、浦添市、那覇市、沖縄県、那覇港管理組合、内閣府及び国土交通省との間で確認しました。

また、浦添第一・第二防波堤については、代替施設の早期建設等に必要不可欠なものであることを踏まえ、代替施設の建設と一体的に進めることなども確認しました。こうした点を、本協議会において関係機関の間で確認できたことは、那覇港湾施設の早期返還の観点から、大変重要だと考えています。

なお、移設協議会と同日に内閣府が主催する第22回「県都那覇市の振興に関する協議会」(振興協議会)も開催されました。

振興協議会において、那覇市から、那覇港湾施設の跡地利用に向けた取組状況や那覇市の振興について、説明があり、内閣府、防衛省及び沖縄県で連携しながら、支援及び検討していくことを確認しております。

防衛省としては、那覇港湾施設の返還に向けて、引き続き、全力で取り組んでまいります。



第30回移設協議会の様子(地元側)



第30回移設協議会の様子(国側)

風力発電設備の設置を行う際の防衛省への事前相談のお願いについて

風力発電設備は自衛隊・在日米軍のレーダーや通信などに大きな影響を及ぼす可能性があります。

風力発電設備の導入促進と、自衛隊・在日米軍の円滑な運用の両立を図るため、風力発電設備の設置・変更を計画される関係者の皆様におかれましては、陸上、洋上を問わず、事業計画策定の初期段階で防衛省へ事前相談いただくようお願いいたします。

また、令和6(2024)年5月に成立した防衛・風力発電調整法(「風力発電設備の設置等による電波の伝搬障害を回避し電波を用いた自衛隊等の円滑かつ安全な活動を確保するための措置に関する法律」)に基づき、電波障害防止区域内(陸上)において、羽根の長さが5m以上又は風車高が20m以上の風力発電設備を設置等する場合、工事着手の前に、防衛大臣への届出が必要となります。

電波障害防止区域内であっても、風力発電設備の場所や高さによっては、設置等が可能な場合があるほか、電波障害防止区域外や洋上であっても、自衛隊等の運用に影響を及ぼす可能性があることから、事業計画策定の初期段階で事前にご相談いただきますよう、お願いいたします。

【防衛省ホームページ】

「風力発電設備が自衛隊・在日米軍の運用に及ぼす影響及び風力発電関係者の皆様への事前相談のお願い」

URL : <https://www.mod.go.jp/j/approach/chouwa/windpower/index.html>

【防衛省連絡先】

防衛政策局運用基盤課 連絡先：(代表) 03-5366-3111



嘉手納野球場落成式典

令和7(2025)年4月3日、嘉手納野球場の落成式が行われ、関係者の方々が出席し施設の完成を祝いました。旧施設は、建設から相当の期間が経過し、施設機能の老朽化が進んでいたことや公式球場としては手狭な球場となっておりましたが、今回、嘉手納町が町民のニーズや地域の更なる活性化に寄与することを目的に、当省の防衛施設周辺まちづくり支援事業及び特定防衛施設周辺整備調整交付金事業を活用し、施設機能を拡充し、全面的に改修・整備したものです。

当局といたしましては、地域住民の皆様方の生活と防衛施設との調和を図ることが何よりも重要であると認識しており、今後とも防衛施設周辺の皆様方の生活の安定及び福祉の向上に寄与するための各種施策の実施に取り組んでまいります。



落成式テープカットの様子



完成した嘉手納野球場の全景(嘉手納町提供)



防球ネット(嘉手納町提供)



人工芝バッティングマット(嘉手納町提供)



人工芝管理用トラクター(嘉手納町提供)



嘉手納町長
富山 宏

本島初の全面人工芝球場が誕生！

この度、「嘉手納野球場」の機能拡充工事が完了いたしました。

平成26(2014)年度に機能拡充基本構想を策定し、その後順次基本設計、実施設計を行い、令和3(2021)年度には解体工事を実施、令和4(2022)年度から本体建設工事に着手し令和7(2025)年3月に竣工を迎えております。なお、同事業については、防衛省の「嘉手納飛行場等周辺まちづくり支援事業」及び「調整交付金事業」を活用させていただきました。

施設整備にあたっては、町内の各種利用団体や一般利用者等へのヒアリングを行うとともに、県内主要野球場を参考に規模を決定いたしました。完成した新施設は、両翼100m、センター122mの各種大会が開催できる施設となっております。

既存施設は内野部分が黒土、外野部分が天然芝でありましたが、維持管理や周辺への黒土飛散防止などの観点から全面人工芝にて整備を行っております。そのことから沖縄本島では、雨天に影響されにくい初の全面人工芝球場となっております。

本施設の多様な活用を図る事により、町民や施設利用者の健康増進、スポーツ技術の向上、地域の振興及び観光振興の促進を図るとともに、スポーツコンベンションへの展開につなげていく所存であります。

リニューアルオープンした新嘉手納野球場が、町民をはじめ県内外の多くの方に末永く親しまれ、利用していただける施設となることを期待しております。

名護市一般廃棄物処理施設開所式

令和7(2025)年4月6日、名護市一般廃棄物処理施設の開所式が行われ、関係者の方々が出席し施設の完成を祝いました。

本施設は、老朽化した一般廃棄物焼却施設の更新・拡充を行うことにより、名護市内から排出される一般廃棄物及び名護市内に所在する防衛施設からの緊急時の廃棄物の受け入れ、処理することを目的とし、名護市が当省の防衛施設周辺整備助成事業を活用して整備したものです。

当局といたしましては、地域住民の皆様方の生活と防衛施設との調和を図ることが何よりも重要であるとの認識の下、各種の施策を講じているところであり、今後もその推進に取り組んでまいります。



開所式テープカットの様子



施設外観



1号焼却炉



ペットボトル圧縮結束機



名護市長
渡具知 武豊

名護市一般廃棄物処理施設は、防衛施設周辺対策事業として採択され、長きにわたり整備に取り組んでまいりましたが、名護市一般廃棄物処理施設が令和7(2025)年4月7日から開所する運びとなりました。

本施設は、昭和52(1977)年に竣工した老朽化が著しい名護市環境センターの後継施設として、市民が長く待ち望んできた施設であります。

計画当初から今日に至るまで、実に15年以上の歳月を重ねており、その間、建設予定地の選定、補助メニューの検討、環境影響評価、施設建設に係る諸調整など、市のみならず、たくさんの方のお力添えにより、本施設の開所が無事迎えられたものと感じております。

今後は、市民が待ち望んだ本施設が、安全に滞りなく、長きにわたって、市民生活の礎として機能し続けるよう、適正な管理運用に努めてまいります。

防衛施設中央審議会

令和7(2025)年3月3日から4日の日程で、防衛施設中央審議会の中西会長ほか3名が沖縄における駐留軍用地の現状などを現地視察するため訪沖されました。

駐留軍用地として新規に土地等を提供するために、都道府県の収用委員会に代わって、防衛大臣が土地等の使用又は収用の裁決を行う場合には、防衛施設中央審議会の議決を経なければならない等とされており、同審議会は、その議決等を行う機関として有識者の委員で構成されているものです。

今回の現地視察において、まず1日目は、第15旅団庁舎屋上にて松島管理部長から那覇港湾施設の概況説明を受けた後、実際の運用状況を視察され、その後、沖縄防衛局に移動し、伊藤局長から統合計画の進捗状況等について概況説明を受けた後、庁舎屋上から嘉手納飛行場を視察していただきました。2日目は、普天間飛行場代替施設建設事業に関し、キャンプ・シュワブ近傍において、三沢調達部長から大浦湾の地盤改良の現状について説明を受けるとともに、土砂運搬を行っている名護市の安和栈橋も視察していただきました。この他、キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区の返還跡地に建設された琉球大学病院も視察していただきました。

委員の方々からは「短期間ではあったが両日の現地視察を通して得られたものは多かった」との評価をいただきました。今後とも沖縄防衛局は、こうした現地視察等を通じて防衛政策への理解の促進に努めてまいります。



嘉手納飛行場の視察



普天間飛行場代替施設建設事業について説明

日米合同地域安全パトロールについて

沖縄市における犯罪や事故の防止、地域の防犯意識の向上を目的として、令和7(2025)年4月18日に「第1回 日米合同地域安全パトロール」が実施されました。

当該パトロールには、花城沖縄市長をはじめ、玉城沖縄県知事やウルフォード海兵隊太平洋基地司令官などが参加し、沖縄防衛局からは伊藤局長ほか職員7名が参加しました。

花城沖縄市長から「地域の安心・安全な環境づくりや、防犯意識の向上には、自治会や行政機関、警察、また、この地域を訪れる米軍の関係者が協力する必要がある」との開会あいさつがあり、玉城知事から「一致団結してパトロールすることで、犯罪や事故の防止にも寄与する」とのあいさつがありました。また、ウルフォード海兵隊太平洋基地司令官からは「より安全で安心な地域社会を築くための私たちの共通の努力だ」とのあいさつがありました。

当該パトロールを継続的に実施することにより、事件・事故の再発防止につながり、在日米軍の綱紀粛正と再発防止にも資するものと考えています。

今後、当該パトロールを実施する際は、関係機関と協力し積極的に参加していきたいと思います。



パトロール出発式



パトロールの様子



花城沖縄市長



玉城沖縄県知事



ウルフォード海兵隊
太平洋基地司令官

新 幹 部 紹 介



すが ひでき
総務部長 菅 秀樹

4月1日付けで総務部長を拝命しました菅です。

沖縄防衛局における勤務は、7年ぶり2度目となります。これまで内部管理業務に長く携わってきた経験を活かし、沖縄防衛局が直面する課題の解決に向けて総務部として組織を支え、円滑に前進するよう取り組んでまいりたいと思います。

また、前回勤務時には十分に吸収できなかった、沖縄の豊かな自然、歴史、文化など、少しでも多く学んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



そのだ やすたか
会計監査官 園田 康孝

4月1日付けで会計監査官を拝命しました園田です。

沖縄での勤務は今回が初めてであり、新鮮さを感じているところです。会計監査官として、沖縄防衛局の適切な業務遂行に寄与できるよう、求められている課題にしっかりと取り組んでまいります。

また、様々な機会を見つけてじっくりと沖縄の自然、文化や伝統に触れて、沖縄への理解を深めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



ほんだ とよのぶ
企画部次長 本田 豊信

4月1日付けで企画部次長を拝命しました本田です。

前職は企画部の地方調整課長でした。引き続き企画部業務に携わることになります。

日本を取り巻く安全保障環境は戦後最も厳しく複雑なものとなっている中、沖縄県民をはじめとする国民の皆様の命と平和な暮らしを守るため、沖縄防衛局においても防衛3文書に基づく施策を進めているところです。他方で、これらの施策を進めるにあたっては、地域の皆様のご理解をいただくことも重要であり、そのためには防衛省・自衛隊について広く知っていただくよう、様々な形での取組みを進めていきたいと考えております。



とぐち まさき
企画部次長 渡久地 政樹

4月1日付けで企画部次長を拝命しました渡久地です。企画部は、地元自治体や地域住民の皆さまのご理解とご協力を得ながら、在沖米軍などの関係機関と調整し、普天間飛行場の移設をはじめとする土地の返還など沖縄の基地負担軽減に関する施策に取り組んでいます。

沖縄の皆さまのお考えをしっかりと聞きながら、職務に邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



いがわ ただひろ
管理部次長 伊川 忠宏

4月1日付けで管理部次長を拝命しました伊川です。

私は沖縄県平良市（現宮古島市）出身であり、平成4（1992）年9月に当時の那覇防衛施設局に入局し、以降、沖縄と東京（防衛施設庁・防衛省）を行き来して経験を積んできました。

管理部は、在日米軍や自衛隊が使用する防衛施設の取得、管理、米軍の諸活動で生じる損失の補償、返還地の支障除去、米軍人等による事件・事故の対応等を行っており、防衛施設の安定的な使用の基盤とも言える大変重要な役割を担っています。自身のこれまでの経験を活かしながら、地元の皆様のご意見をしっかりと受け止め、様々な課題の解決に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

ロウワー・プラザ緑地ひろばに無料貸し切りドッグランがオープンしました!

令和7(2025)年4月1日から、ライカム交差点沿いの一面に天然芝900㎡のフェンスで囲まれた広々とした空間をドッグランとして開放しており、多くの方々にご利用いただいております。時間制貸切で、小型犬から大型犬までご利用いただけます。

今後も返還まで多くの方々に喜んでご利用いただける緑地ひろばとなるように取り組んでいくとともに、引き続き同地区の早期返還に努めて参ります。

【ドッグラン利用の概要】

- ・利用可能日
毎週 火・木・土・日
- ・利用可能時間
1日10枠、1枠60分
(受付・鍵返却含め60分)
- ・料金 無料
- ・利用方法
管理事務所へ電話予約(予約優先)
☎090-6859-7896

「広々とした空間でワンちゃん
が安心して走り回れるので、
楽しく過ごせます。」(利用者)

詳細はこちらから

防衛局HP



防衛局X



沖縄県内各地でのマラソン大会に出場

日本ではジョギング、ランニングが定着し、その人口は900万人とされています。令和6(2024)年度も県内各地域で特色あるマラソン大会が開催され、沖縄防衛局から多くのランナーが大会に参加させていただきました。

10月19日の第30回伊平屋ムーンライトマラソンは月あかりのもと走ることができる日本でも珍しい大会です。厳しい残暑の中、スタータを務めた森広企画部長の号砲のもと、伊平屋島内の42キロを駆け巡りました。

12月1日の第38回NAHAマラソンでは、那覇市の奥武山公園(那覇市)をスタートし国際通りやひめゆりの塔など本島南部を巡り制限時間(6時間15分)内でのゴールを目指しました。

2月16日の第30回おきなわマラソンは、沖縄市の沖縄県総合公園運動場を発着点とするアップダウンの激しい過酷なコースですが、コースの一部に米軍の嘉手納飛行場が組み込まれ、マラソンを通じた日米交流も楽しむことができました。

3月2日の第23回あやはし海中ロードレースには約20名の沖縄防衛局のランナー達がODB(沖縄防衛局)Tシャツを着てうるま市の海中道路を走りました。

4月12日の第32回伊江島一周マラソンでは島のシンボル城山(伊江島タッチュー)を眺めながら心地良い海風と畑地の緑を駆け抜けました。

どの大会においても、沿道の方々から途切れることのない応援とサーターアングギーや沖縄そば等のバラエティに富んだエネルギー補給をいただき、沖縄の各地域の方々の暖かさに直接触れさせていただくことができました。開催いただいた地域の皆様に熱く御礼申し上げるとともに、令和7(2025)年度のマラソンシーズンにおいても数多くのランナーが数多くの大会に参加できるよう頑張ります。



10.19 伊平屋ムーンライトマラソン
森広企画部長から
三沢調達部長へ給水の様子



3.2 あやはし海中ロードレース
スタート前のODBランナーズのメンバー



4.12 伊江島一周マラソン
10kの部に出場した
調達計画課玉城事務官